

保育者養成における「ひと・もの・こと」に出会う 体験型学習プログラムに関する実証的研究(8)

——体験学習における振り返りの時期と方法についての検討——

藤川 志つ子*・近藤 千草**・菅井 洋子***
竹内 啓****・内海崎 貴子*****

An Empirical Study on the Learning Program for Child-Care Givers- Based on Experiences of Interaction with People, Things and Events-(8) A study on When and how to look back at the Experience of Learning

Shitsuko FUJIKAWA, Chigusa KONDO, Yoko SUGAI
Satoru TAKEUCHI, Takako UCHIMIZAKI

要 旨

本稿では、幼児教育学科に位置づけられている初年次専門独自科目である「幼児教育体験学習」で体験学習後に学生が書いた振り返りシートの記述内容に焦点を当て、体験学習の意味付を含めた講義を体験学習の事前に行うことで、学生の「学び」にどのような変化が見られたのかを振り返りシートの記述内容の量的変化と質的变化に着目し、検討することを目的とした。また、その結果から学生の学びにつながる振り返りプログラムの作成に向けての示唆を得ることについても目的とした。

分析の結果、事前に体験学習内容の意図するところを学生に明確に伝えることや、視覚的な教材を使いながら、活動の振り返りをするすることで、ほとんどの学生で記述量的変化が見られた。また、質的变化についても具体的な「保育者の視点」で体験学習を捉える等の変化が見られる結果となった。一方、事前講義を受ける前からそのような視点で活動を体験できている学生も見られたことから、今後は、学生同士の意見を可視化する方法や意見交換の場を振り返りプログラムの中に組み入れ、学生同士の学び合いにつなげていくことを検討していく事が望まれよう。

キーワード：保育者養成、体験型学習、事前講義、保育者の視点、振り返りプログラム

*講師 臨床発達心理学・障害児保育
**准教授 教育学
***准教授 発達心理学・保育学

****准教授 図画工作
*****教授 教育学

1. はじめに

本学幼児教育学科では、保育者養成に関する体験型学習プログラムとして「幼児教育体験学習」を2010年度から本格的に始動し、2011年度からは1年次必修科目（通年）として設置し、保育者として資質を培うべき多様なプログラムを学生に提供している。昨年度の実施報告では、附属保育園における体験学習を通じた学生の学びについて（近藤(千)他、2012）、学生が捉えた〈保育者と子どもとの関わり〉に関する検討について（箕輪他、2012）附属保育園体験実習と初年次学生の学習との関連について（菅井他、2012）そして、栽培活動プログラムとしての1つである米づくりを通して得られた「もの」との出会いと気づきについて（竹内他、2012）身体表現を通しての「ひと・もの」との出会いと気づきについて（森田他、2012）お手玉作りと遊び唄を通して（近藤(光)他、2012）の検討を各学会（日本保育学会、全国保育士養成協議会、日本乳幼児教育学会、日本幼少児健康教育学会）、および「報告書」（2013）、川村学園女子大学研究紀要（2013）においてすでに報告してきた。プログラムの内容は多岐にわたり、毎回プログラム終了時には振り返りシートへの課題に沿った感想や意見の記入を求めている。

本稿では、栽培体験で学生が記入した振り返りシートの記述から「体験学習」での学生の学びが事前講義の有無でどのような変化があったのかに着目し、有効な振り返りプログラムの作成に向けての示唆を得たいと考える。

栽培体験は、ほとんどの学生が子どもの頃に体験した活動であり、将来保育者となった時に、子どもと体験し得る身近な活動である。その活動を保育者の視点として学生時代に体験することは、保育者を目指す学生にとって有用であると考えられる。そのため、「体験学習」を学生が「楽しかった」「経験出来て良かった」だけに留まらず、保育者の視点を持って「体験学習」を経験する事で、その後の学習が保育者としての視点を持った学びに繋がっていくと思われる。今回、体験授業の事前講義を行うことで学生自身の「体験学習」の理解の仕方や、内的表現の仕方の変化に着目し、振り返りの時期と方法について検討することを目的とした。

2. 研究方法

分析対象として栽培体験後に学生自身が記入した振り返りシートの記述内容の一部を使用した。平成24年7月16日の野菜の収穫後に記入した振り返りシートと平成24年7月28日に「体験学習」の意味付けを含めた事前講義実施後に野菜を収穫し記入した振り返りシートで、両日

共に記入がされていた振り返りシート 62 名分の文字記録を全て入力し、そのデータをもとに、対象とした質問項目の文章の量的変化と記述内容の質的变化について分析した。

振り返りシートの質問項目は①野菜や花の世話をして「人」とのつながりをどのように感じましたか。具体的なエピソードを交えて述べて下さい。②今回、実際に野菜を育て、収穫し、味わってもらいました。また、花を育てることも体験してもらいました。そのことで発見したことや考えたことはありますか。③このような経験を通して自分自身の中に変化を感じましたか。また、将来の自分にどのようにつながっていきたいと思いましたか。の3項目であった。

今回、分析対象とした質問項目は③の「このような経験を通して自分自身の中に変化を感じましたか。また、将来の自分にどのようにつながっていきたいと思いましたか」とした。

3. 体験学習事前講義内容

3-1 植えたものが育っていく様子を視覚的に確認

体験学習事前講義は、平成 24 年 7 月 28 日に幼児教育体験学習担当教員が 1 年生全員に対して実施した。まずは、栽培体験の初回である平成 24 年 4 月 28 日の野菜の苗植えの写真（写真 1・2）をスクリーンに示し、視覚的に確認を促した。スクリーンに映し出された写真を見ると、学生から「こんなに小さい苗だったっけ」「畑の土がこんなに見えていたんだ」「懐かしい」等の声が上がったことから、視覚的に確認を促すことで、記憶がより鮮明に想起されていったと思われた。



写真1 野菜の苗植えの様子



写真2 野菜の苗

次に、野菜の成長を比較するために 7 月 5 日に撮影した写真（写真 3・4）をスクリーンに示し、成長を視覚的に確認させると共に、栽培活動のプロセスである「水遣り・草取り・友だちと一緒に作業したこと・面倒だったこと・台風被害のこと・実った野菜を見つけた時の喜

び・収穫したときの喜び・食べたときの思い」等についても想起できるように改めて問いかけた。植えたものが育っていく驚きと喜びを視覚的な確認と同時に内的な変化についても喚起を促した。



写真3 実った野菜



写真4 茂った野菜畑

3-2 細部まで観察した体験

更に野菜の育ちを、スケッチを通して細かく観察した活動についても確認し（写真5・6）、その活動は、子どもの様子をしっかりと見ることにもつながるといふ、スケッチ活動の意味付けを伝えた。更に、野菜の育ちを文字記録として残す「観察日記」を記すこと（写真7）は、様子を詳細にことばで伝える「保育者の視点」につながる事や、日記を学生自身が記す体験をすることで、野菜の育ちを観察する「子どもの視点」に立って体験するという両方の意味をもつことを確認した。



写真5 野菜の苗をスケッチする様子



写真6 スケッチの様子



写真7 観察日記

4. 結果

4-1 全記述から見た文章量の変化

記入された文章を句点で区切り，事前講義無しで記入を求めた振り返りシートの記述量と事前講義後に記入を求めた振り返りシートの記述量の増減について分析した。その結果，ほとんどの学生で文章量の増加が確認された（表1）。

表1 記述量の増減の人数（n=62）

記述量の増減	人数
増えた	54名
減った	1名
変わらない	7名

1文から7文の増加が認められたのは62名中54名であった。また，変化が見られなかった学生は7名であり，文章量が減ったのは1名であった。増加が認められた54名の内訳は，1文の増加が26名であり，2文の増加が16名，3文の増加が4名，4文の増加が5名，5文の増加が2名であり，7文の増加が1名であった。いずれの場合も，1文が長文になっていたことが特徴的であった。事前講義を受けて，学生自身が体験した事柄をより詳細に記述しようとする傾向がうかがわれた。

4-2 記述内容別に見た記述量の変化

次に、記述内容をその内容から

- ①体験：体験学習や作業体験に関する記述
- ②野菜・栽培：野菜の育ちや栽培に関する気づきの記述
- ③未来の保育者像：保育者としての視点での記述の3つに分類し、事前講義無しと、事前講義後の記述内容の変化を整理し、その結果の抜粋を以下に示した。

表2 体験：体験学習や作業体験に関する記述の抜粋

講義前の記述	講義後の記述
<ul style="list-style-type: none"> ●食べ物のありがたさを感じた。協力しあってひとつの事を成し遂げることの大切さを知ることが出来た。 ●ぜひ今回みたいに、グループに分けて協力しあって友だちとの絆を深めていってけるように教育できたらいいなと思った。 ●野菜作りには興味がなかったが経験してみたらすごく楽しくて成長を見ていくのがとても楽しかった。 ●人と協力することの大切さを改めて実感した。 ●皆で何か一つを「つくる」という作業はまかせっきりにしてしまいがちな私ですが、野菜や稲のために自分でしっかりやっていく事が出来た。 ●自分の水やりの時に、みんなで育てるという意識をもって忘れずに世話をするという責任感を持てるようになった。 ●このような経験を通して育てることの意味と大変さがすごくわかりました。 ●「育てること」の意味をちゃんと理解する ●畑を耕す作業から始まり、食べるまで成長する期間が本当にあつという間だった。どんどん成長する野菜や花に愛情が芽生えた。 ●農業体験はなかなかできないので、貴重な体験。できて良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●このような体験を経験したことで改めて食べ物の大切さ、ありがたさを実感した。 ●育ててみて思ったことは、育てている中でこんな風に育ててほしいという思いの反面、自然災害や水不足等でなかなか育たないケースが実感できた。 ●カエルがいたりトンボがいたり普段触れ合う事のない生き物に出会えていい体験になった。今日先生のお話を聞いてどういう意味があったのかよくわかってよかった。 ●稲を育ててみて思ったことは、細かい稲から一粒一粒のお米が出来る過程が成長しているんだなあと感じさせ、みんなと協力して何かをするということの大切さを学べたので良かった。 ●今回の経験と振り返りのスライドを見て、いろいろな出会いとか育てる大変さも感じた。 ●植物の世話をすることで新しくできる友人関係や改めて友人関係が深まるきっかけになると思う。 ●いっぱい虫がいて大変だった。 ●野菜作りを通して普段はあまり交流のない子とも話せるようになった。 ●今日、スライドを見て何気なく育てていたけど、野菜を子ども、自分たちを保育者と置き換えてみると本当に生きているものを育てるのは大変だし、難しいけれど実や花がついたら嬉しかったしやりがいがあった。 ●体験授業を通して、野菜の水あげの当番は少しさぼってしまったことがあった。記録するのが大変で記録がなかなかできなかった。今思えば毎日きちんと記録までしておけばよかったと思えた。 ●当番制がうまくいかない事もりましたが、少しでもかかわる機会があつてよかったです。 ●振り返ってみて、自らの手で触れて世話したりすることにより、植物に対して気持ちがこんなに変わるんだと驚きました。

<p>●「なぜ栽培を体験するのか」「子ども経験をする」ことが大切なのかを感じられた。</p>	<p>た。観察を通して、少しの変化を感じるたびに、嬉しかったりハプニングに驚いたり時には悲しくなったりとたくさん思うことができて良かったと思います。</p> <p>●栽培という「植物のふれあい」に保育者にどのような関係があるか最初はイマイチよくわからなかったけど、改めて講義を聞いてつながりが解った。</p>
--	--

講義前の記述においても、「協力しあってひとつの事を成し遂げることの大切さを知ることが出来た。」「人と協力することの大切さを改めて実感した。」「みんなで育てるという意識をもって忘れずに世話をする・・・」等と、協力する事・協働で作業する事の大切さを作業体験から感じ取った学生が数名確認された。また、「経験してみたらすごく楽しくて成長を見ていくのがとても楽しかった。」「このような経験を通して育てることの意味と大変さがすごくわかりました。」「『育てること』の意味をちゃんと理解する」「どんどん成長する野菜や花に愛情が芽生えた。」「貴重な体験。できて良かった。」との記述から、体験学習の意味についても、自分なりの理解を示していた事が確認された。しかし、表2が示す様に事前講義後の体験の振り返りシートでは、明らかに記述量が増えその内容も詳細な記述となっていた。更に「育ててみて思ったことは、育てている中でこんな風に育ててほしいという思いの反面、自然災害や水不足等でなかなか育たないケースが実感できた」「当番制がうまくいかない事もありましたが、少しでもかかわる機会があってよかったです。」という記述から、自分の思い通りにならない体験も自身の学習として獲得していこうという姿勢が伺われた。また、「『なぜ栽培を体験するのか』『子ども経験をする』ことが大切なのかを感じられた。」「『植物のふれあい』に保育者にどのような関係があるか最初はイマイチよくわからなかったけど、改めて講義を聞いてつながりが解った。」との記述から、体験学習が保育者のなるために必要な経験だという事の学びに繋がったと推測される。

表3 野菜・栽培：野菜の育ちや栽培に関する気づきの記述の抜粋

講義前の記述	講義後の記述
<p>●食べ物のありがたさを感じた。</p> <p>●植物の生きる生命力に驚かされた。日に日に大きくなっていくのが、目で見てわかって、毎回見るたびに勇気もらった。</p> <p>●今までは、野菜作りなどに興味もなかったし、やりたくないと思っていた</p>	<p>●4月に植えた頃とは比べものにならないほど成長していた。台風の影響で未だにおれたままだったが折れながらもすくすくと成長し続けていた。</p> <p>●以前、水やりで見た時の野菜の状態と今日の野菜を収穫した時の野菜の状態を比べてみると確実に成長していた。トマトも赤く実っていて、ネギもたくさん育っていた。特にきゅうりは特大サイズに成長しているものも多くあって驚いた。</p>

<p>たけれど、経験したらすごく楽しかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●野菜を育てるのに色々な肥料や細かい作業を知ってよかったです。 ●子どもと一緒に野菜を育てたとしたら、好き嫌いなくなるような言葉かけをしたいです。 ●何気なく食べている野菜もこんなに人の苦勞を経てできているんだなと思いました。食べ物に感謝して食べようと思いました。 ●植物を育てつつ生命の大切さを教えてくれたらと思う。 ●自然の生命力に感動した。 ●もっと家の植物も大切に育てようと思った。 ●自分で野菜園を作りたい。 ●私の家でも野菜を育てています。しかし、とても風が強くなり育ってくれません。野菜などのためにもっと工夫をして上手に育ててあげたいと思いました。 ●頑張って水やりをして育てたので、大切に食べたいと思った。 ●野菜に対する見方が変わった。いつも買う側だったが、作る人の気持ちをもっと考えるようになった。 ●将来いつか家庭菜園をする時に役立てたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今日、野菜を観察して私が前に当番だった時より実が大きくなって驚きました。きゅうりが見たこともないくらい大きくなっていて、自分でもびっくりしました。中には収穫時期が過ぎちゃったのかな？とおもうのもあって収穫するタイミングが大切なんだと感じました。 ●苗植えた頃を思い出すと、畑が森のようになるほど緑で埋め尽くされていてこんなにも成長したことに驚きでした。きゅうりが見たこともないほどの大きさに成長を遂げていることに思わず目を見開いてしまいました。 ●自分の育てた野菜とスーパーの野菜の違いを比べることが出来た。 ●自分の育てた野菜はやっぱりなんか特別な思いがあるので美味しく感じた。 ●野菜の苗が畑からはみ出すくらいに成長していました。きゅうりを収穫したら手が黄緑色になりました。 ●収穫するときに倒れている植物を見て育てる大変さも感じた。 ●野菜を育てることと子どもを育てることが一緒だということが解った。野菜も生きているから、放置すれば死ぬ。野菜はただ言葉がないだけ。 ●トマトの葉っぱは広がりすぎてなかなかトマトが取れなかったけれど、少しいつもより奥まで行ってみたら赤いトマトがたくさんありました。中には枯れてしまったり、潰れていたものもありました。同じ野菜でもそれぞれ色々な形・色があります。 ●野菜を育ててみて、毎回水やりを行くごとにすごく成長していて、その成長していくところを見るのがすごく楽しみでした。 ●一つの苗からたくさんの実がなり、果実が出来る驚きやワクワクを味わえた。 ●ミニトマト・なす・ピーマン・きゅうりを改めて収穫して今まで育てたひとつひとつの喜びや大変さを感じる事が出来ました。台風で育てたミニトマトの枝が折れたり、ネギは下が伸びていかなかったりと上手にいく事ばかりではないんだなと思いました。 ●今まで頑張って育ててきた野菜が大きく育っていてうれしさがこみあげてきました。
--	---

野菜の育ちや栽培に関する気づきについて、講義前の記述は「野菜作りなどに興味もなかったし、やりたくないと思っていたけれど、経験したらすごく楽しかった。」「野菜を育てるのに色々な肥料や細かい作業を知ってよかったです。」「家の植物も大切に育てよう」と

思った」「将来いつか家庭菜園をする時に役立てたい。」等と『野菜』に関する記述ではあったが、表面的な情報にとどまっていた。しかし、講義を受けてからの記述は「トマトも赤く実っていて、ネギもたくさん育っていた。」「特にきゅうりは特大サイズに畑が森のようになるほど緑で埋め尽くされていて」「野菜の苗が畑からはみ出すくらいに成長し…」「きゅうりを収穫したら手が黄緑色になりました。」「トマトの葉っぱは広がりすぎてなかなかトマトが取れなかった」「同じ野菜でもそれぞれ色々な形・色があります。」と一つひとつの野菜の様子を色・形まで詳細に観察し記述することが出来ていた。このことは、子どもを観察していく時や、子どもに自身の経験を伝える時、また保育の中で、子どもに声をかけていく時に必要な視点と思われる。今後、保育者として子どもに関わっていくときに、様々な事柄を保育者自身がどのように感じられるかということは重要なことと考える。

表4 未来の保育者像：保育者としての視点での記述の抜粋

講義前の記述	講義後の記述
<ul style="list-style-type: none"> ●子どもにも協力し合って、友だちとの絆を深めていけるように教育できたらいいなと思った。 ●自分が保育者になった時、子どもたちにも同じような思いをして欲しいと思った。 ●野菜を育てたりすることは子どもたちともやると思いますが、今回の事を思い出しながら育てたいです。 ●子どもの食育問題の対策につながるような物の大切さを教えられたらいいなと思いました。 ●子どもたちと共に、植物を育てつつ生命の大切さを教えていけたらと思う。 ●育てる事の楽しさを子どもと一緒に分かち合えるような先生になりたい。 ●将来、自分が先生になったら小さいスペースでも植物や野菜を育てたい。 ●先生になった時、生徒に生命の大切さを伝える。 ●この経験を生かして、保育現場で発揮したいと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●将来保育者になったらこの幼児教育体験学習で学んだことを子どもたちに教えてあげたい。その際には子どもたちの発見などもしっかり聞き、子どもとともに新たな発見をしていきたいと思った。 ●保育者は子どもの目線や子どもの事を考えることが分かった。野菜もただ「モノ」として見るのではなく「これから育てるモノ、子どもたちと一緒に成長していくモノ」 ●保育者の立場になれば、自分たちが楽しむのも必要なことですが、やはり子どもたちに体験させてあげて『何か』を発見することが第一だと思う。 ●なかなか思い通りにいかない事も多かった。それは、子どもを育てる上でも同じようなことが言えるのだ。 ●野菜を育てる事も、子どもを育てる事も同じであるということが分かった。そしてそれを通じて育てることの難しさを子どもたちに教えることが出来たらいいなと思った。 ●子どもたちは、一つひとつの出来事を喜んだり、悲しんだりするので、それを一緒に共有することのできる保育者になりたいと思いました。 ●野菜を育てると、子どもを育てるのは似ていると気づき、野菜を育てるのも大切に育てないといけないと思った。 ●保育士になった時子どもたちと一緒に育てて、一緒に収穫して喜びや達成感を共有したいなと思いました。 ●ひとつの苗からたくさんの実がなり、果実が出来る驚きやワクワクを味わえた。子どもがとても喜びそうだった。子どもだったらその時どんなことを考えるのだろうか。

<ul style="list-style-type: none"> ●将来、幼稚園の先生になるとしたら私も子どもに植物の力を見てもらいたいと思います。 ●将来保育者になった時、育てる楽しさや収穫の楽しさを知ってもらいたい。 ●子どもたちにも教えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ただ野菜を育てているのではなく、将来の保育につながる役立つことだと分かった。 ●保育者という立場になった時、何かを育てるときに同じような気持ちを共感したりできたらいいなと思います。そのためには、実際に自らの手で触れる・感じるということが大事だと思います。 ●今までは「学生の視点」の体験だったものが、だんだんと「保育者の視点」の体験へ移り変わっていく様子もはっきりと見えてきた。
---	--

保育者としての視点での記述については、「子どもにも協力し合って、友だちとの絆を深めていけるように教育できたらいいなと思った。」「子どもたちにも教えたい。」「自分が先生になったら小さいスペースでも植物や野菜を育てたい。」との記述から、体験させたいという思いはあるが、体験の意味を保育者の視点で捉えることについては、やや弱いイメージであった。また「子どもの食育問題の対策につながるような物の大切さを教えられたらいいなと思いました」「先生になった時、生徒に生命の大切さを伝える。」「将来保育者になった時、育てる楽しさや収穫の楽しさを知ってもらいたい。」と具体的な活動につなげる記述も散見されたが、数は少ないものであった。しかし、講義を受けた後では「その際には子どもたちの発見などもしっかり聞き、子どもとともに新たな発見をしていきたいと思った。」「子どもの目線や子どもの事を考えることが分かった。」「一緒に共有することのできる保育者になりたいと思いました。」との記述から、保育者として幼児教育体験学習を『体験』することの意味を考える様子や、「野菜を育てると、子どもを育てるのは似ていると気づき、野菜を育てるのも大切に育てないといけないと思った。」「なかなか思い通りにいかない事も多かった。それは、子どもを育てる上でも同じようなことが言えるのだ。」との記述から、保育者としての心構えを感じ取れた様子がうかがわれた。また、「今までは『学生の視点』の体験だったものが、だんだんと『保育者の視点』の体験へ移り変わっていく様子もはっきりと見えてきた。」との記述から、単なる『楽しい経験』ではなく、『保育者の視点』で幼児教育体験学習を体験していこうという意識の変化が感じられる結果となった。

4-3 特定ケースに見る記述量と内容の変化

特に変化が顕著であった3名の学生の記述を以下に示した。

〈学生 A〉

表5 学生 A の記述内容の変化

講義前の記述	講義後の記述
<ul style="list-style-type: none"> ●大学生になって野菜や花を育てることになるなんて全く予想していませんでした。 ●小学生までだったと思います。 ●大学生で野菜を植えて育てて食べて…。 ●年齢に関わらず、楽しい事なんだと思いました。 ●将来この楽しさを子どもたちに伝えていけたらと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ●野菜を収穫しました。ピーマンとトマトときゅうりを収穫しました。 ●<u>ピーマンはまだまだ小さい</u>が多かったです。 ●<u>キュウリは大きいものばかり</u>で驚きました。 ●<u>トマトは奥にかき分けて入らないととれません</u>でした。 ●以前に収穫した物を食べて、<u>美味しかったのを覚えています</u>。 ●先生のお話を聞いて「<u>子どもの経験</u>」を<u>経験する</u>と言う事が理解できました。 ●蛙や虫もたくさんいました。 ●今度は取れた野菜を家に持って帰って<u>家族に自慢する子どもの経験</u>をしてみようかなと思います。

この学生の記述では、記述量が増えていることに加えて、内容についてもより詳しく記述できており、野菜については「ピーマンはまだまだ小さい」「キュウリは大きいものばかりで驚きました」と視覚的な情報の大きさについての詳細な記述がされており「トマトは奥にかき分けて入らないと取れません」といった様な、実際に体感した収穫の仕方にまで言及して書かれている様子が見られた。また「美味しかったのを覚えています」といった味覚を想起した記述も見られる等、多様な変化が見られていた。更に体験を「年齢に関わらず楽しい事なんだと思いました」とやや漠然とした表現から「こどもの体験をするという事が理解できました」「家に持って帰って家族に自慢する子どもの経験をしてみようかなと思います」といった、具体的な行動を想起しての記述へと変化が見られた。この変化は、幼児教育体験学習を保育者の視点で捉えることに繋がる事と推測され、講義を受けることによって体験学習が深い理解へと変化していったと考えられた。

〈学生 B〉

表6 学生 B の記述内容の変化

講義前の記述	講義後の記述
<p>●子どもと一緒に野菜を育てたしたら、好き嫌い無くなるような言葉かけをしたいです。</p>	<p>●今日、夏休み前最後に野菜を取りに行きました。</p> <p>●<u>トマトの葉っぱが広がりすぎて</u>なかなかトマトが取れなかったけれど、少しいつもとより奥まで行ってみたら<u>赤いトマト</u>がたくさんありました。</p> <p>●中には<u>枯れてしおれてしまったり、潰れて居た</u>のもありました。</p> <p>●それは少し残念だなと思いました。先生の話を聞いて、<u>同じ野菜でもそれぞれ色々な形・色があります。</u></p> <p>●子どもたちはそれを見て「<u>こんなのもあるよ！これは大きいよ</u>」とか色々な感想を持って<u>育てる事に楽しさを覚えてくれるかな？とか協力して何かをすることを身につけられるかな？</u>とか思いました。</p> <p>●幼児教育体験学習を通して「<u>子どもの気持ちになって</u>」何かをしたりまた、「<u>子どもに教える立場</u>」になって何かをしたりすることは<u>将来の保育者として大切なステップ</u>だと感じました。</p>

この学生についても同様に、講義前の記述においては単一的な展望の記述であったが、講義後の記述においては、「葉っぱが広がりすぎて…」「赤いトマト…」「枯れてしまった…」「同じ野菜でもそれぞれ色々な形…」と野菜を観察する始点について具体的に観察し、記述できている結果となっていた。また、子どもたちが野菜と触れ合う姿にまで想像を膨らませ『「こんなのもあるよ」「これは大きいよ」とか色々な感想をもって…』『「子どもの気持ちになって」何かをしたり…保育者として大切なステップ…』と体験を通して、保育者としての自分の姿を重ねてイメージできる結果となっていた。このことは、今後学習を重ねて『保育者』になっていくための、意欲につながっていく事だと考えられる。

将来の夢を具現化するためには、どのような学びが必要なのかを実体験をもって学生自身が獲得していけるような学びの場を用意する必要性を感じられた。

〈学生 C〉

表7 学生 C の記述内容の変化

講義前の記述	講義後の記述
<p>●変化は特に感じない。このままで大丈夫。</p>	<p>●小さな苗を一株ずつ4月に植えた。 ●これからどれだけの実をつけるのかと胸を高鳴らせながら。 ●日に日に葉が大きくなり、数も増え、丈も高くなっていくのが嬉しかった。 ●花が咲き、青い実が出来た時、台風がやってきた。 ●その強風は夜中吹いていて、野菜たちをなぎ倒して去って行った。 ●朝、折れた茎を見た時はショックを受けた。 ●後で先生が折れたところを取り除いて、残った部分は元気に成長していった。 ●たまに畑に来て収穫した時はすごく楽しかったし、嬉しかった。 ●きっとこれは子どもと同じような経験であり、子どもに対する保育者の気持ちでもあるのだろうか、と先生の話しを聞いて考えた。</p>

この学生は、記述量に加えて内容的にも特に大きな変化が見られていた。講義前の記述では体験による変化は特に感じることなく、このまま学習を積み上げていく事に疑問も持つことはない状態であった。しかし、講義を受け学生自ら、時系列での想起を行い体験の様子を振り返ることで、体験学習の意味を理解することにつながり、更に、保育の仕事と結びつける事が出来たように思われた。学生が、作業の一つひとつを丁寧に想起し「葉が大きくなり…丈も高くなっていく…嬉しかった」「折れた茎を見た時はショックを受けた」「収穫した時はすごく楽しかった…」等の感情の変化に対して気づきを持つことができ、子どもの気持ちになることや、子どもの体験を保育者がすることの意味につながったと考える。そのことは「子どもと同じような経験であり、子どもに対する保育者の気持ちでもあるのだろう」との学生の記述から推測された。このように、学生自身が体験からの感情を丁寧に掘り起こし、認識していき、更に言語化していくことで体験がより深いものになっていくと考えられた。

5. まとめ

以上の結果から、教員側が体験を意味づけて学生に伝えることで、「見る視点の変化」つまり、自己体験としての視点だけにとどまることなく「保育者としての視点」への変化が見られ、

学生自身への新たな気づきへとつながっていく可能性が示唆された。このことは、学生が将来保育者になり保育者が保育活動を行うときに、例えば栽培活動において、葉の大きさや手触り、匂い、その場で見つけた生き物など、様々な事柄に対する気づきや感覚に気づかせることばがけが保育者から子どもになされることは、子どもが新たな発見をすることに繋がり、体験をより深く心に刻み込むことが出来るのではないかと考える。

今回、事前講義の内容の記憶が明確な時に「収穫体験」を行ったためか、振り返りシートに記載された記述内容が詳細かつ具体的なものであった。事前講義で活動を振り返る時に、聴覚的な「講義」だけでなく、視覚的な「映像・写真・具体物」で確認することが、学生の体験をより詳細に印象付けるためには、有効であるということが示唆された。

以上のことから、体験学習後の振り返りについて視覚的な教材も使いながら、実施していく事の有効性や事前に活動内容の意図するところ、いわゆる「活動のねらい」を学生に対して明確に伝えていくことが、学生自身が目的意識を高く持って活動に参加することにつながり、豊かな学びにつながっていく可能性が示唆された。

また、記述内容の分析結果から事前講義を受ける前でも、教員の意図する「活動のねらい」をくみ取っていた学生も数名見られていた。このことから、今後個人で活動の振り返りをするに加えて、例えばKJ法等を実施し、各個人の意見を可視化することや、小グループでのシェアリングを実施する等、学生同士の思いの共有の場や意見交換の場所づくりを、体験学習プログラムの中に積極的に取り入れていく事が必要と思われる。

そして、学生自身に共通の体験をしても、感じることや得られるものは人によって大きく違うということや一緒に作業をする中で発見することや新たな気づきが得られるということを知り、将来の保育者同士の協働につなげていきたいと考える。

参考資料

1. 近藤千草他, 2013, 「保育者養成における『ひと・もの・こと』に出会う体験型学習プログラムに関する実証的研究(6) —附属保育園における体験学習を通じた学生の学び—」, 『川村学園女子大学紀要』, 第24巻第2号
2. 箕輪潤子他, 2013, 「保育者養成における『ひと・もの・こと』に出会う体験型学習プログラムに関する実証的研究(7) —学生が捉えた〈保育者と子どもとの関わり〉に関する検討—」, 全国保育士養成協議会第51回研究大会
3. 菅井洋子他, 2013, 「保育者養成における『ひと・もの・こと』に出会う体験型学習プログラムに関する実証的研究(8) —附属保育園体験実習と初年次学生の学習との関連—」, 全国保育士養成協議会第

保育者養成における「ひと・もの・こと」に出会う体験型学習プログラムに関する実証的研究（8）

51 回研究大会

4. 竹内啓他, 2013, 「保育者養成における『ひと・もの・こと』に出会う体験型学習プログラムに関する実証的研究（9）—米づくりを通して得られた『もの』との出会いと気づき—」, 日本乳幼児教育学会第 22 回大会
5. 近藤光江他, 2013, 「保育者養成における『ひと・もの・こと』に出会う体験型学習プログラムに関する実証的研究（12）—お手玉作りと遊び唄を通して—」, 日本幼少児健康教育学会第 31 回大会
6. 森田玲子他, 2013, 「保育者養成における『ひと・もの・こと』に出会う体験型学習プログラムに関する実証的研究（13）—身体表現を通して『ひと・もの』との出会いと気づき—」, 日本幼少児健康教育学会第 31 回大会
7. 「保育者養成における『ひと・もの・こと』に出会う体験型学習プログラムに関する実証的研究」報告書（2013）

追記

本稿の一部は、日本乳幼児教育学会第 22 回大会（2013）で発表した。